

対馬暖流は蛇行しながら北上 対馬暖流の流量は平年並み 今後の沿岸水温は平年より高く推移

2026年2月20日～3月6日にかけて実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。

対馬暖流は奥尻島西方から積丹半島に近づき武蔵堆周辺で沿岸と沖合のルートに分かれ北上しています(図1c)。対馬暖流の北上流量は約1.5Sv (1 Sv=10⁶ m³/s) で平年並みとなっています(2月流量の平年値は1.2 Sv)。

50 m深水温は3～10℃で、石狩湾以南では、沿岸海域で平年よりも約1～2℃高く、沖合海域では1～3℃低くなっています。石狩湾以北の海域では平年並み(水温偏差-2℃～2℃程度)でした(図a,b)。

3月上旬の余市前浜水温は「かなり高い」となり(※1)、向こう1ヶ月の気温の予報はほぼ平年並みか高いとなっていますので(※2)、今後、沿岸水温は平年より高く推移する見込みです。

※1 余市前浜水温：<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/central/section/kankyuu/suion/2026.html>

※2 気象庁HPより1ヶ月予報：<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?region=010100&term=P1M>



余市前浜水温 気象庁1ヶ月予報

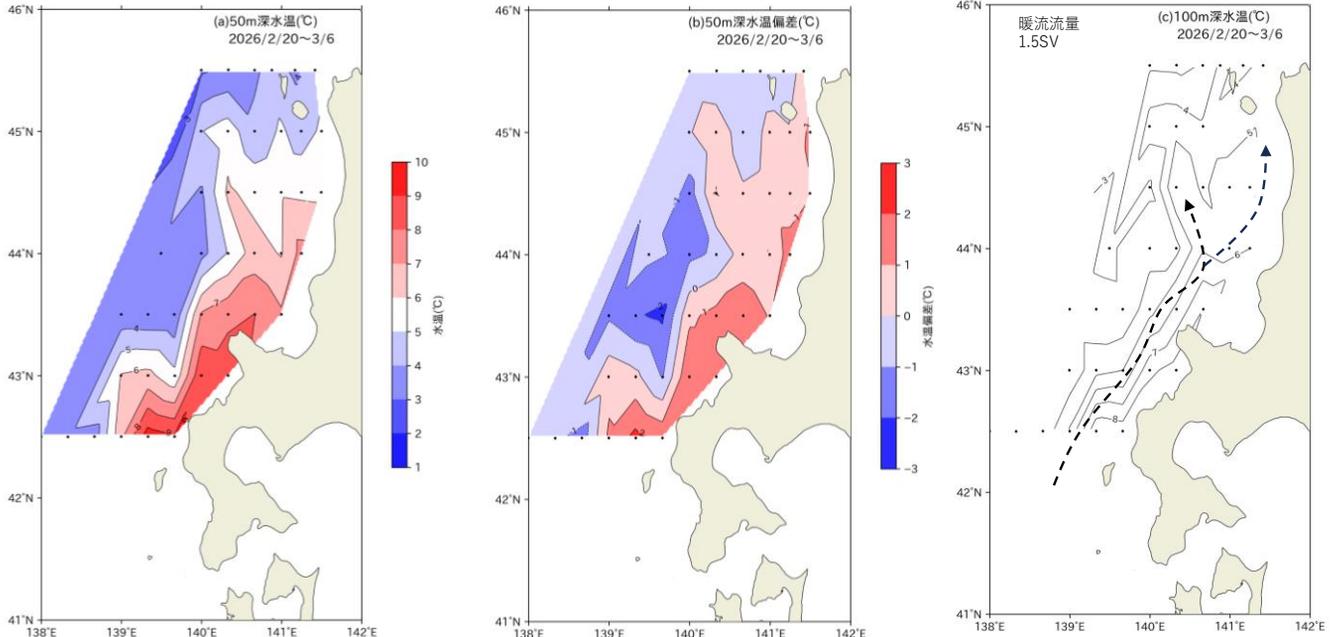


図 2026年2月中旬から3月上旬における (a) 50m深水温 (b) 50m深水温偏差の水平分布、(c) 100m深水温の水平分布と対馬暖流の流路(矢印)。水温偏差は過去30年(1989年～2018年)の平均値から算出。流量の単位はSv (=1×10⁶m³/s)。